

今ある私

元常葉学園高等学校
植松初美(昭45卒)



月日の経つのは早いもので、退職してから5年の歳月が流れました。現在は、両親の介護と孫の面倒、そして趣味として始めたテニスと、充実した日々を送っています。自分自身でも笑ってしましますが、こんな年齢になっても、まだ若い者には負けられないという気持ちが起こって来ています。週1回のテニスも今では週3回となり、技術向上のために必死で取り組んでいます。

私は子供の頃、病弱でした。そんな私を心配して当時の担任の先生が、ソフトボール部入部を勧めて下さいました。そんな経緯で、入部。私は、休日もほとんどなく、練習漬けの毎日を送っていました。そのお蔭で丈夫な体になりました。

担任の先生の一言のお誘いが、私の人生をかえたといっても過言ではありません。ソフトボールを通して「不屈の精神」を身につけることができました。特に「根性」という言葉は、現代ではいろいろと言われていますが、今ある私の土台を作りあげてくれたと思っています。それだけではなく、周りに対しての気配り、無駄のない時間の使い方などソフトボールを通して、さまざまなことを学びました。

私は37年間、母校である常葉学園にお世話になり、多くの卒業生を送り出してきました。6ヵ年一貫教育のため、中学校生活を共に過ごした彼女たちが、高校生活を終了し立派に巣立っていく姿に、毎年感動していました。37年間の教師生活で、とても多くのことを学びました。これは私にとって、大切な財産となりました。

在職中休むこともなく勤務できたことは、ソフトボールと出会い、心身ともに鍛えられたことと同時に、家族の支えや理解があったからだと思っています。また、専門外である体操部顧問として、全国大会を何度も経験し、選手たちの演技に一喜一憂したことも懐かしい思い出です。こういう貴重な経験や感動を与えてくれたのは、私をいつも支えてくれた先生方の助けがあったからでした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

現在88歳になる母親に、「人さまに迷惑をかけてはいけない。」と今でも言われます。母の姿を見て今の私があるのだと感謝しています。

在職中、短大卒である私に温かい声をかけて下さった同窓会の皆様方に、厚くお礼申し上げます。皆様方の更なるご活躍をお祈りいたします。

としての生活が始まるのだと思うと、身の引き締まる思いでした。私は今、中学校の体育教師として忙しい毎日を送っています。夢が叶った喜び以上の大きな困難や、心が折れそうになるような出来事も多々あります。学級経営や授業、部活動において、これをやってみたいという理想はあっても、うまく行かずなかなか実現出来ないことばかりです。しかし、そんな時こそ教師を志した時の気持ちを思い出し、更に

前向きに対応しています。失敗ばかりの毎日ですが、子供達の笑顔に触れ、共に学び合い成長を実感出来る日々幸せを感じています。教員生活がスタートし、様々な悩みはありますが、そんな時は日体大OBである諸先生方にいつも助けられています。日体大の縦のつながり、横のつながり、絆の強さを実感します。私もこの絆を大切に、後輩にとつて頼れる良き先輩になれるよう、日々精進して行きたいと思っています。

第六回エッサッサゴルフコンペ



エッサッサコンペ事務局
県立富士宮北高等学校
村松 隆(昭63卒)

平成二十六年八月十八日(日)に、毎年恒例の「エッサッサゴルフコンペ」が富士宮市の朝霧ジャンボリーゴルフクラブで開催されました。

平成二十一年より毎年開催され、今回で六回目を数えるようになりましたが、ここ数年、ゴルフの高校選

手権大会等の行事が重なり、二十七年度は少し開催日を変更していく予定になっております。

今回も、県会長の土屋正男先生をはじめ、前会長の堀勇先生を含め、東部より、初出場の板垣典明、鈴木敏彦、渥美修身、佐山正、堀池学の各先生方、西部より土屋、加茂育夫、中部より土屋信二と各先生方の参加を戴き、村松を含め十名での開催でした。



結果につきましては、団体戦は東部を二地区、中西部を一地区として行われ、堀・堀池・村松の東部Bが優勝し、東部地区の六連覇となりました。個人戦は、新ペリア制で行われ、グロス82、ネット71.2で土屋正男会長が優勝、準優勝はグロス82、ネット71.2で村松隆、第三位はグロス79、ネット73で堀池学先生でした。第七回大会も八月に朝霧ジャンボリーで開催予定です。

編集後記

若々しい新芽が山を包み始めました。さて、執筆者の皆様のご協力のお陰で、「日體」第31号を発行出来る事になりました。執筆頂いた皆様

